多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシーフォーラム3
第二分科会（齋藤科研）
「子どもたちの日本語の発達を可視化する一語彙・文法の力に焦点を当てて一」
2016年2月28日　お茶の水女子大学

日本生育外国人児童の「出来事作文」にみられる ねじれ文の分析

科学研究費補助金　課題番号：23520615　　基盤研究（C）
「日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する基礎研究
－日本語作文の縦断調査—」（代表：齋藤ひろみ）

工藤　聖子（東京学芸大学大学院生）

１　目的

目的

２―６年生の作文におけるねじれ文の出現状況を、日本人児童と比較・分析し、日本生育外国人児童の「文を産出する力」の発達上の課題を明らかにする。

２　児童の作文における「ねじれ文」に関わる先行研究

- 松本恭子 (2000)「ある中国人児童の来日2年間の助詞機能の使用状況--発話資料と作文資料の縦断調査報告」

- 東川祥子 (2004)「「定住型児童」に対する日本語教育：「書く力」の育成から学習言語の育成を考える」

- 嶌田陽子, 齋藤ひろみ, 菅原雅枝(2013)「外国人児童の作文能力に関する縦断調査: 小学 2 年から 6 年までの出来事作文における複文の分析を通して 」

３　研究方法

同一児童の作文（２－６年）について、縦断的に調査を行う。出来事作文から、ねじれ文を抽出し、日本生育外国人児童と日本人児童の経年変化を比較・分析する。

（１）分析対象

	外国人児童（F）	日本人児童（J）	計
児童数	33	14	47
作文数	165	70	235

ベトナム	中国	カンボジア	ラオス	フィリピン	計
20	5	5	2	1	33

３　研究方法（２）ねじれ文とは

＜定義＞

野田（2007）「不必要な重複があるもの、呼応がみだれているもの、過度な省略がある文」

金田（2012）「文の形が途中で変わり、文の出だしと述語の呼応が崩れている文を破格（アナコルソン、anacoluthon）と呼ぶ。」

本研究の「ねじれ文」の定義

単文においては主語と述語が、複文においては主節と従属節の呼応が不適当である、または呼応がない状態の文。

本研究では、このうちの複文のみを分析の対象とする。

<ねじれ文のタイプ>

野田（1996）の分類

①過剰型…二種類の異なる文が混交し、かつ、出だし側と述語側に似たような意味の語彙が重複している

②不足型・・・形式名詞などを端折ることで出だしと述語が呼応しなくなる文のタイプ

③漠然型・・・「本来、文には含めなくてよい見出し相当のものを、無理に文に組み込もうとする」

本研究における分類

過剰タイプ　呼応不整タイプ　挿入タイプ

３　研究方法（２）　ねじれ文のタイプ

１）過剰タイプ

Ａ 「スタンプを<u>あつめて</u>、ぜんぶ<u>あつめられました</u>」（2年J）

　主語、述語、目的語など、文の構成要素の重複がある文。

３　研究方法（２）　ねじれ文のタイプ

２）呼応不整タイプ

B 「次に昼ごはんの楽しかったことは、みんなとおべんとうをたべながら、中良く話したりしました。」（6年F）

文の主部と述部の呼応が不適当である文。

３　研究方法（２）　ねじれ文のタイプ

３）挿入タイプ

C.「でも思ったよりますごくきつくてあるけなかったけど、さいごに〇〇山につかくなったときは、ついにのぼりきれたら、どろけいをしました。」（4年J）

話題を無理に加える、或いは続けることで、主部と述部の関係が崩れた文。文をわけたほうが自然になる文。

３　研究方法(3)　分析方法

1）ねじれ文の抽出
　分類

2）学年ごとの出現数・出現率を日本人児童と比較

3）個人別の分析（出現数の経年変化によるタイプ分け）

4）ケースによるねじれ文の出現状況の質的分析

ねじれ文の判断

①文の構造上の誤りがある複文を抽出する

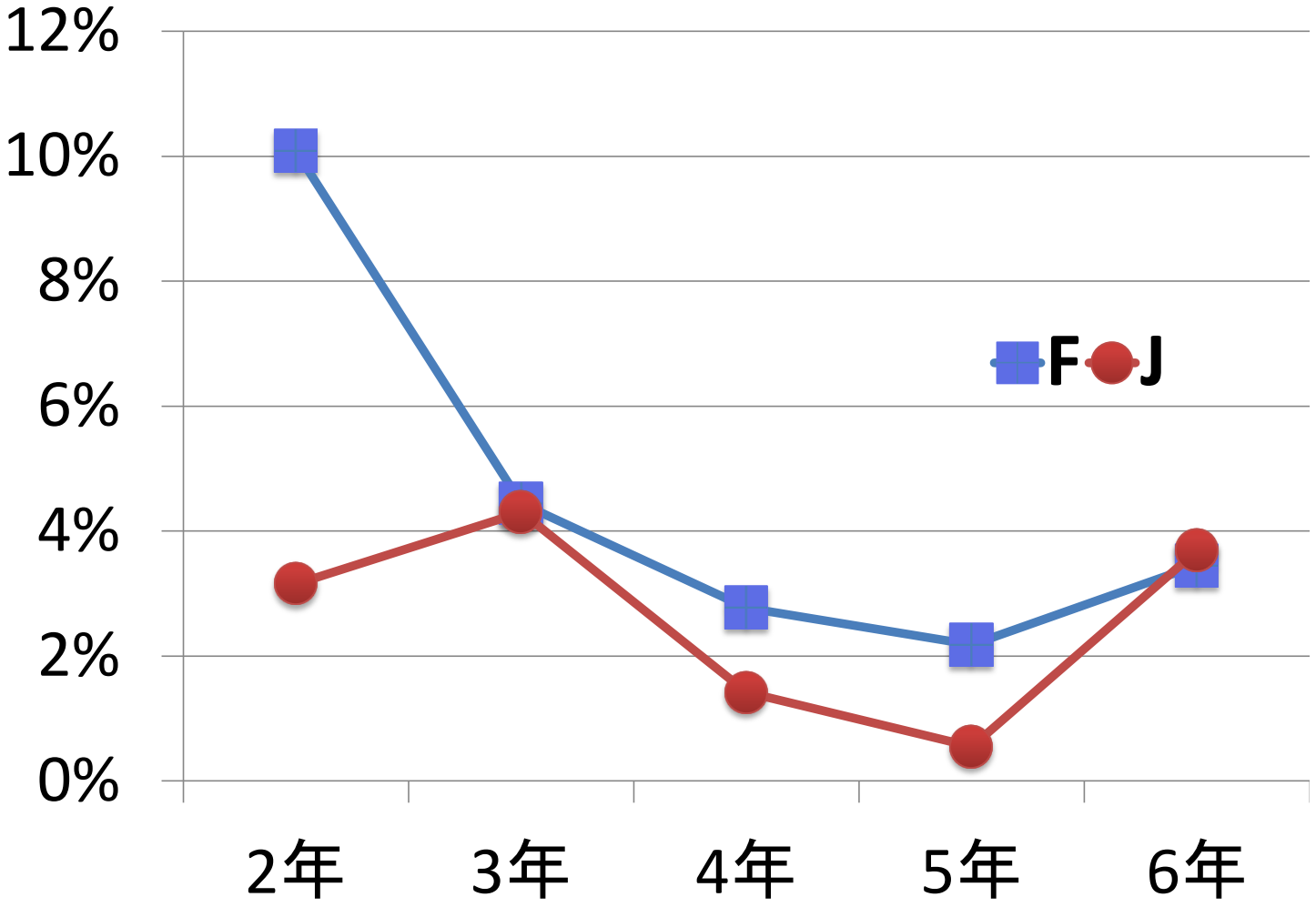
②ねじれ文の定義に合致するものに絞り込む（接続助詞等の語の選択の誤りと考えられる文は対象から外す）

4　結果　①　ねじれ文出現作文数の変化

F	2年	3年	4年	5年	6年
作文数	13	15	15	10	13
	39.39%	45.45%	45.45%	30.30%	39.39%

J	2年	3年	4年	5年	6年
作文数	5	6	4	1	4
	35.71%	42.86%	28.57%	7.14%	28.57%

4　結果②　　ねじれ文率



各学年のねじれ文総数÷総センテンス数

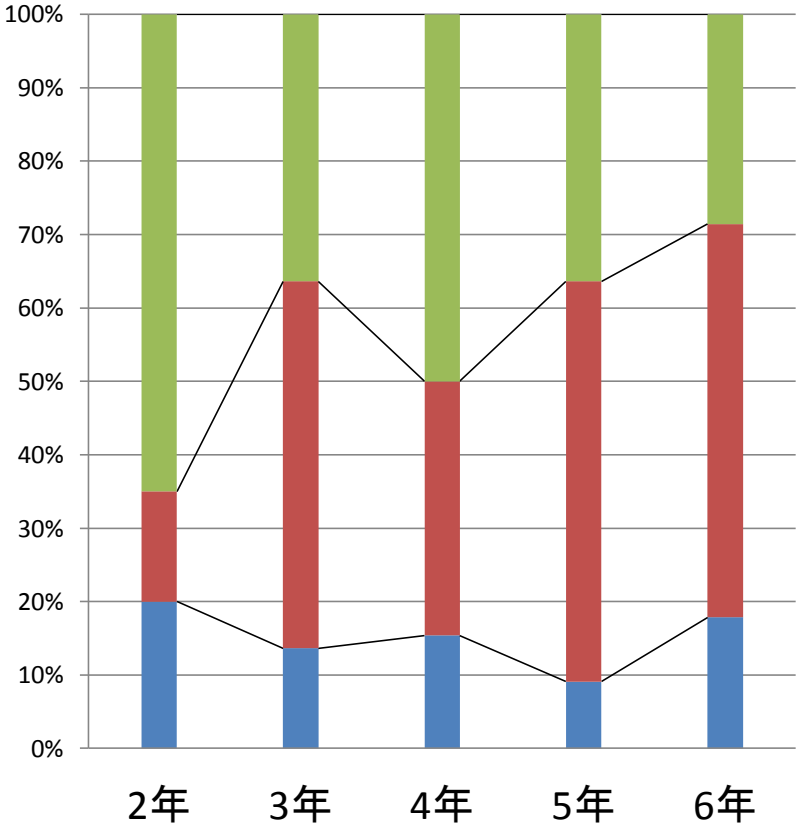
4　結果③　タイプ別ねじれ文出現数と割合

タイプ別ねじれ文出現数　F

F	2年	3年	4年	5年	6年
過剰	13	8	13	4	8
呼応不整	3	11	9	6	15
挿入	4	3	4	1	5

タイプ別ねじれ文出現数　J

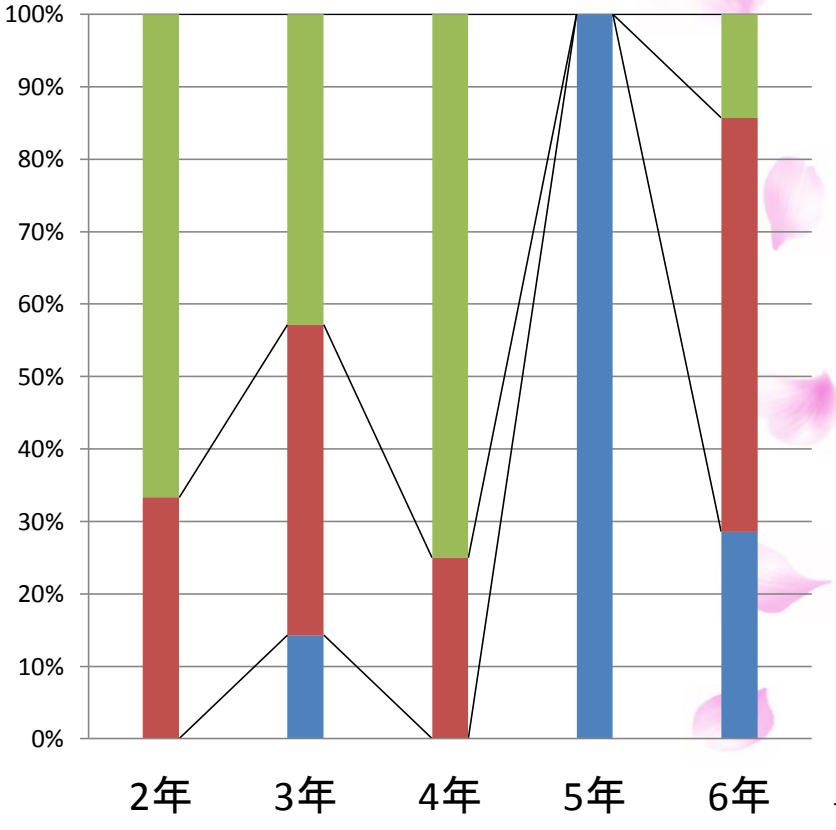
J	2年	3年	4年	5年	6年
過剰	4	3	3	0	1
呼応不整	2	3	1	0	4
挿入	0	1	0	1	2



過剰

呼応不整

挿入



４　結果④　個人の結果

２年から６年の出現状況による4タイプ

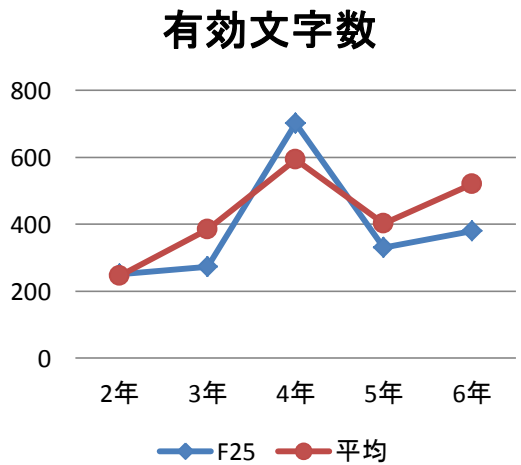
58%	F	J 29%
a. 低・中・高学年あり	8	0
b. 中・高学年あり	11	4
c. 低・中学年あり	11	9
d. ねじれ文なし	3	1

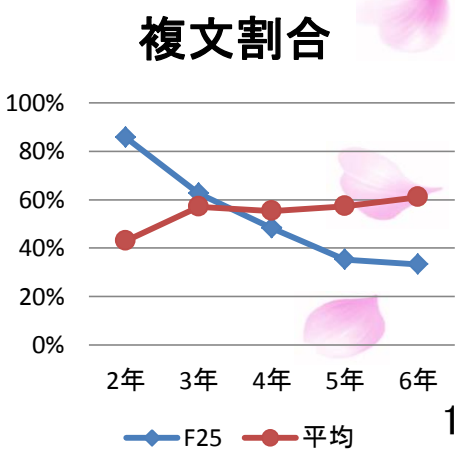
4　結果⑤　ケースによる質的分析

ケース1　（タイプa）　低・中・高学年あり　　ベトナム

2年	①	ぼくは、ずとあるいてたからつかれてたけど、がんばてあいたら〇〇こうえんについてそのときは、とてもつかれていましたけどついたらとてもひろかったけどふたんぷはぜんぶとれませんでした	挿入 過剰
	②	おべんとがおわたら〇〇こうえのかわにいてあそんでたらざりがにがいました	過剰
	③	がばて、つかれたけどがっぱて学こうにぶじにかえりました	過剰
3年	④	それでたのしかたのはあめゴロゴロてたのしかったのはぽつぽてさいしょはふてきたけどあとからざてふってきてたのしくてすしくてあとからをはてあつくってつかれたけどさいごまでがんばりました。	過剰 呼応不整
4年	⑤	それにうみのみすがきれいでのめられるとおもったけれどうみのみすわしよがはいってるからです。	呼応不整
	⑥	それにイルカしょおでくじらのなかまのでかさがでかかったです。	過剰
6年	⑦	欠にやってきたのはあすれちっくにやってきました。	呼応不整
	⑧	あすれちっくでやったことは、6年の△△と□□と、5年の××と1年の※※とゴーファイブをやりました。	呼応不整

2年：「て」「けど」「たら」「とき」
3年：「て」「けど」
4年：「て」「けれど」「たら」
5年：「て」「たら」「たり」「ので」「とき」
6年：「て」「けど」「たり」「ので」「から」





ケース1 （タイプa） 低・中・高学年あり

6年時の作文（抜粋）

最後の金校遠足は、たのしかった。
ぼくは、〇〇公園にきて最初に××にやってきて班でレクをしました。はじめにだるまさんがころんたをやりました。欠にかくれんぼをやりました。次に色おにをやりました。
たのしかったです。欠にやってきたのはあすれちっくにやってきました。あすれちっくでやったことは、6年の△△と□□と、5年の××と1年の※※とゴーファイブをやりました。たのしかったです。

～中略～

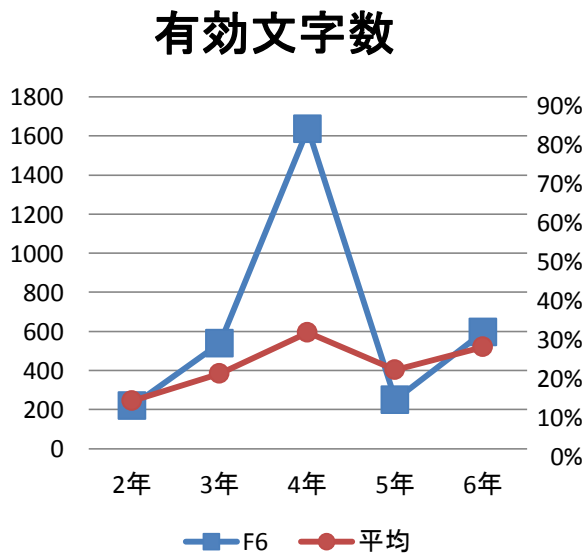
班のみんなわへとへとです。あした学校があるからやすみがよかったです。いいおもいでができました。

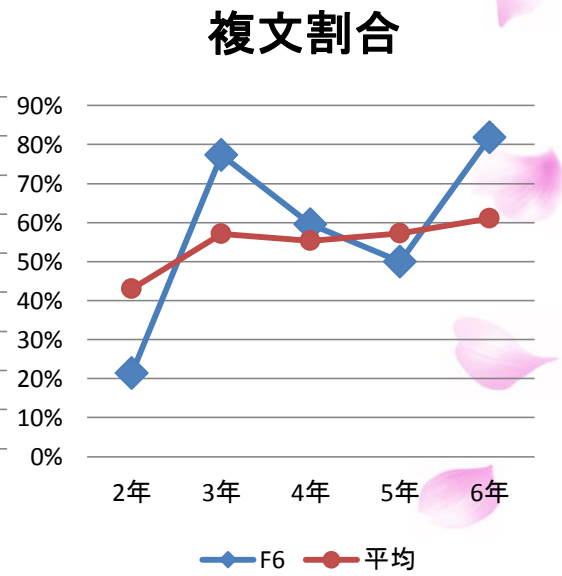
ケース2 （タイプb）中・高学年あり

ベトナム

4年	①	次に見たのが小さなメダカみたいのがまわりぜんたいにうごいてました。	呼応不整
	②	となりにあるエイがはいっているでっかいすいそうがありました。	過剰
	③	みんなわる声がトンネルの外でもこえがきこえます。	過剰
6年	④	その子ともいっしょにレクをしてその女の子がべつの班のところへ行っているところを英語でしつもんしました。	挿入
	⑤	そうしてかえってきたこたえは、「わたしは4才」と言っていました。	呼応不整

2年：「とき」「けど」「たら」
3年：「て」「と」「たら」「あと」
4年：「て」「と」「「たら」「とき」
「から」連用中止形
5年：「て」「と」「ので」
6年：「て」「けれど」「と」
「ので」「あと」



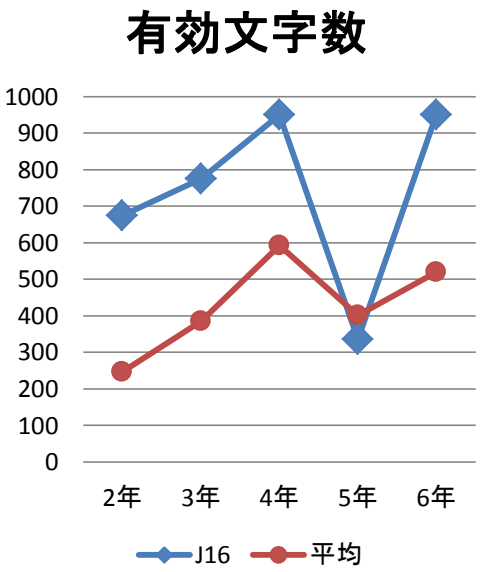


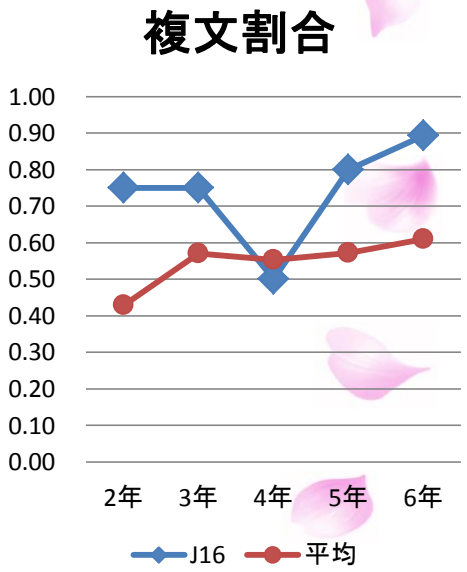
ケース3 （タイプc） 低・中学年あり

日本

2年	①	そしてスタンプラリーをつづけて、いるとさいしにむかっているときにちがうばしょにいってしまいまよってるとみちがわかってきてたからがあるばしょにやっとたどりついて1こスタンプをもらいました。	過剰
	②	それでおべんとうをたべているときまずおにぎりを1こたべているときにかつきくんが、おべんとうを見せてといってきました。	過剰
4年	③	あとクラゲいんんなクラゲがいてびっくりしました。	過剰

2年：「て」「と」「ので」「とき」「から」（理由）
「から」（継起）
3年：「て」「が」「たら」「ても」「ので」「とき」
「ながら」「まえ（に）」
4年：「て」「が」「けど」「のに」「と」「たら」
「たり」「ので」「とき」「あと」
5年：「て」「が」「けど」「ば」「たら」「ので」
連用中止
6年：「て」「ず」「のに」「たら」「たり」「ので」
「し」「ながら」「あと」「てから」「ながらも」



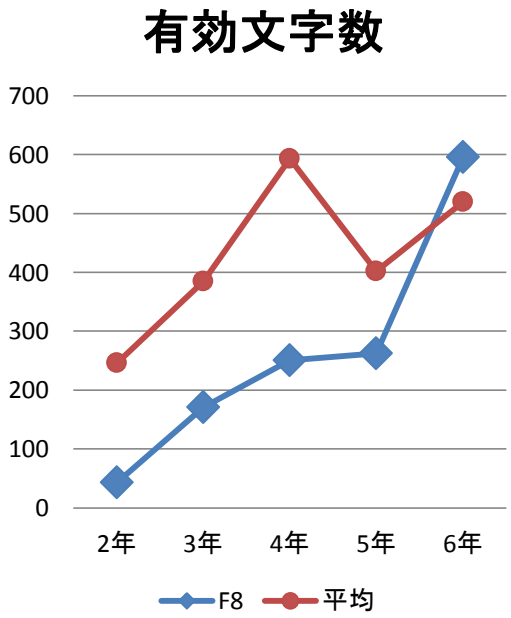


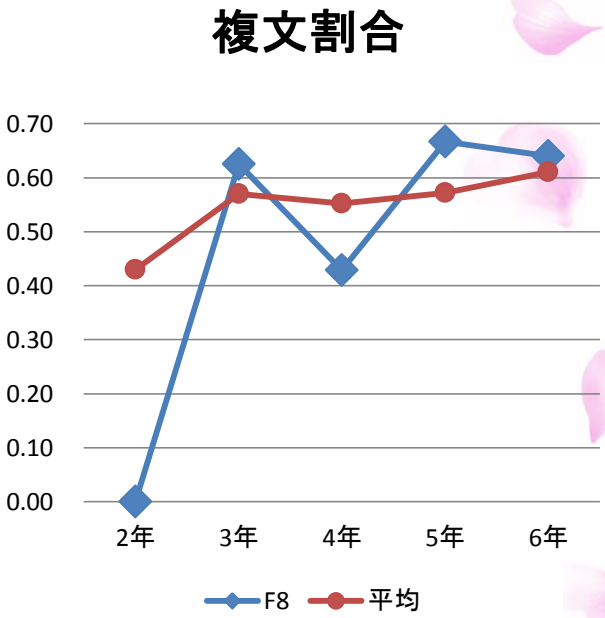
ケース4 （タイプd） ねじれ文なし

ベトナム

2年生

〇〇校えんのロープエーがたのしかったです。すべり大もありました。じめんもどろどろでした。





2年：なし
3年：「て」「たら」「たり」
4年：「て」「「が」「けど」「ても」「たり」「し」
5年：「て」「けど」「と」「たら」「ても」「ので」「し」
6年：「て」「が」「と」「なら」「たら」「ても」「ので」「とき」「ながら」「まえ（に）」

ケース4 （タイプd） ねじれ文なし

6年時の作文（抜粋）

～略～

中でもっともかわいかったのがハツカネズミでした。足の上にのせるとおちつきがないようで止まっていることがほとんど無かったです。止まっているときは、だいたい体をかいている時やお手洗いしているときでした。持って帰りたいほどかわいかっだです。

～略～

すべり台で下に行ったら〇〇先生がいました。〇〇先生が「足ですべり台にのるなら、２人でくっつきながらいった方がはやさが2倍になるよ」と言っていたのでやってみたらそんなにはやさが、かわりませんでした。でも、最後の全校遠なので楽しく最高の思いでができました。

全校遠足最高！！

５　考察

①外国人児童は日本人児童に比べ、複雑な文の産出には課題が長く残る。

・ねじれ文の出現率が相対的に高い。

・ねじれ文のタイプでは、FとJで、経年変化として過剰タイプが減り、呼応不整が増えていく傾向は共通している。しかし、Fは高学年でも過剰タイプが残り、低から高にわたって挿入タイプが見られる。

・Fには、高学年になってもねじれ文が残る児童が多く見られる（58％）

②タイプc,dに見られるように、中学年までに多様な接続形式を使っている児童はF・Jに関わりなく、適正に文を産出する力を高める傾向が見られる。

６　まとめ

１．FとJの発達の違いがねじれ文でどの程度可視化できるのか

→高学年で適正に複雑な文を産出している児童のケースから、接続形式の多様化に伴ってねじれ文が出現しており、ねじれ文は文の産出力の発達過程で現れる現象として分析をする必要がある

６　まとめ

2. この結果をどう教育に活かせるか

→ただねじれたところを直すのではなく、成分同士の関係を表現する多様な表現を身に付けるための教育、自分の作文をモニターする（推敲）指導が必要

参考文献

・秋田喜代美（2007）「子どもたちに必要な「読む力」「書く力」とは何か」,児童心理61,pp1018-1026

・串田秀也・定延利之・伝康晴編（2007）『シリーズ文と発話 第3巻　時間の中の文と発話』ひつじ書房, pp1-33

・齋藤ひろみ・菅原雅枝・嶌田陽子・西島道・工藤聖子・李佳耀(2015)「日本生育外国人児童の作文力の発達に関する調査 —「産出量・文の複雑さ・内容」の分析を通して—」, 社会言語科学会第36回大会発表論文集, pp.46-49

・金田純平(2012)「破格から考える日本語」 定延利之編著『私たちの日本語』朝倉書店

・野田尚史（1996）『「は」と「が」』, くろしお出版

・東川祥子 (2004) . 「「定住型児童」に対する日本語教育 : 「書く力」の育成から学習言語の育成を考える.」早稲田大学日本語教育研究4, pp159-176

・松本恭子 (2000) . ある中国人児童の来日2年間の助詞機能の使用状況--発話資料と作文資料の縦断調査報告. 日本語教育論集(16), pp1-22.

他